薬用植物園の花ごよみ

第６回

熊本大学薬学部薬用植物園

渡邊将人 Masato WATANABE
熊本大学技術部生命科学系技術室技術専門職員

1 熊本大学薬学部薬用植物園の歴史と概要

熊本大学薬学部(大江キャンパス)内にある薬用植物園は，薬学部の前身である官立熊本薬学専門学校の薬草園として1927年に開設した．数度の改組を経て，2019年からは新設された熊本大学大学院生命科学研究部附属グローバル天然物科学研究センターの一組織となり，現在に至る(写真1).[付図1] センターは，「世界中の薬用天然資源を基盤として画期的な新薬を開発し，国民の命と健康を守る」をミッションとしており，当園は希少疾患や感染症などの治療薬開発のための植物の提供，および探索に協力している．なお，園の正式名称は「熊本大学大学院生命科学研究部附属グローバル天然物科学研究センター薬用植物園」となるが，冗長な印象があるため特に理由がない限り「熊本大学薬学部薬用植物園」を使用している．

2015年からはキャンパスを整備し，地域へ開放する「薬草パーク構想」が展開されている．園内は年間を通して開放されており，近隣の方々の憩いの場となっている．また，当園は熊本市中心部に位置しており，熊本空港，熊本駅およびバスターミナルから，乗り換えなしで直接来訪できることも大きな特徴である．

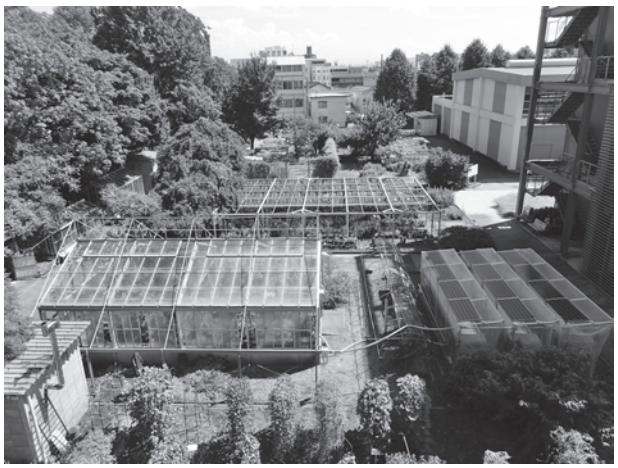

写真１　熊本大学薬学部薬用植物園
J-STAGEではカラーでご覧いただけます(付図1).

2 アートとサイエンスと薬草

2019年，園内に新たな研究棟「産業イノベーションラボラトリー(通称：自然共生型産業イノベーションセンター)」が完成した．館内にはミュージアムが併設されており，日本や世界各国の伝統生薬が展示されている．廊下や研修室には，17世紀の画家ヨハネス・フェルメールの全37作品が常設展示されている(写真2).[付図2] これらは「リクリエイト」された絵画で，額縁を含め，描かれた当時の色彩が原寸大で鮮やかに，精度高く再現されている．加えて，本学教育学部美術科の先生および学生たちの彫刻作品が展示されており，本学部の「アートとサイエンスは共存すべき」という理念のもと，芸術作品と薬草に囲まれた中で研究に打ち込める環境が整っている．

3 植物ラベルとデータベース

学生教育および来園者への啓発に欠かせないもの

写真２　フェルメールのリクリエイト作品
J-STAGEではカラーでご覧いただけます(付図2).

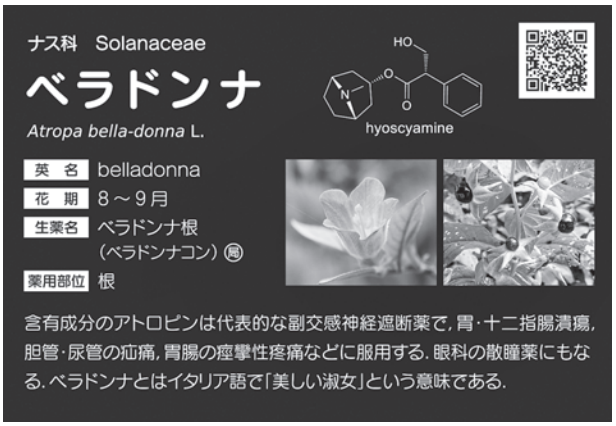

写真 3　植物ラベルの例

J-STAGE ではカラーでご覧いただけます（付図 3）．

が植物ラベルである．当園では，2017 年よりオリジナルのカラーラベルを順次作成，利用している（写真 3）．[付図3)] ラベルには各種名称，花期，生薬名，薬用部位，効能に加え，植物の特徴が見て取れる写真 2 枚，および利用部位に含まれる成分の構造式 1 つを示している．花期については当園における 4 年間の花期調査の結果を示しており，独自のデータである．そのため，図鑑の花期とは大きく異なっているものもある．

ラベル最大の特徴は QR コードの付記である．QR コードをスマートフォンで読み取ると，ラベルには表示されていない詳細な情報を学ぶことができ，写真も最大 10 枚アップロードしている．その情報は「植物データベース」としてまとめており，オンラインからでも適宜植物の情報を得ることができ，学生実習・観察会では大いに利用されている．データベースの写真は，これまでに企業，出版社，研究者，官公庁などへ提供している．

4 植栽植物の特徴

当園は，9,364 m^2 の敷地に約 1,500 分類群の植物を保有している．日本薬局方関係の植物も多数栽培しており，生薬総則に収載されている植物性生薬（粉末生薬を除く）156 種のうち，142 種について基原植物を保有している．

歴史的な植物も多く残っており，旧藩時代の 1756 年に藩主・細川重賢により開設された「蕃滋園（ばんじえん）」に由来する植物（サンザシ，ニンジンボク，サンシュユ，テンダイウヤク，モクゲンジ）も現存しており，「蕃滋園五木（ばんじえんごぼく）」としてキャンパス内の一角に植栽され，260 余年の歴史を現在に伝えている．

当園は日本植物園協会の地域野生植物保全拠点園に認定されており，熊本県を中心とした九州の絶滅危惧植物の生育域外保全に積極的に取り組んでいる．集中して収集しているジャンルは薬用植物であるが，絶滅危機種が多く，かつ薬学的な研究が進んでいない水生植物やシダ植物などにも注力している．絶滅危惧種でないものに関しても熊本県の植物遺伝資源の集積地を目指すべく，この地域より採取したものと順次入れ替えを行っている．

5 薬草パーク観察会

大学は歴史的には教育，研究を使命としてきたが，現在は社会貢献も強調されるようになっている．当園では 2016 年より，一般向けの観察会「薬草パーク観察会」を年間 3～4 回開催している．園内植物の観察のほか，専門家による講演，薬草茶の試飲，および余剰種苗の譲渡などを行っている．これまで，延べ 800 名に参加していただいた．

6 今後の展望

当園は，植物園の基本的な活動である「様々な植物の栽培」を通じ，大学の使命である研究，教育，社会貢献に今以上に寄与することを目標としている．研究については，薬学のみならず分類学，農学などの分野にも研究材料を提供できるようコレクションを充実させたい．教育，社会貢献についてはこれまでの大学内での「待ちの活動」のみならず，野外観察会や薬草勉強会を更に増やし，植物園に足を運べない方々へ向けた活動に力を入れていきたい．

熊本大学薬学部薬用植物園

所在地：熊本市中央区大江本町 5-1
URL：https://www.pharm.kumamoto-u.ac.jp/gcnrs/facility/medicinal_plant_garden/
年中開放，入園無料．ミュージアムは事前連絡が必要．イベント情報はウェブサイト参照．

キーワード

薬用植物園，アートとサイエンスと薬草，植物データベース，蕃滋園，薬草パーク

Copyright © 2023 The Pharmaceutical Society of Japan